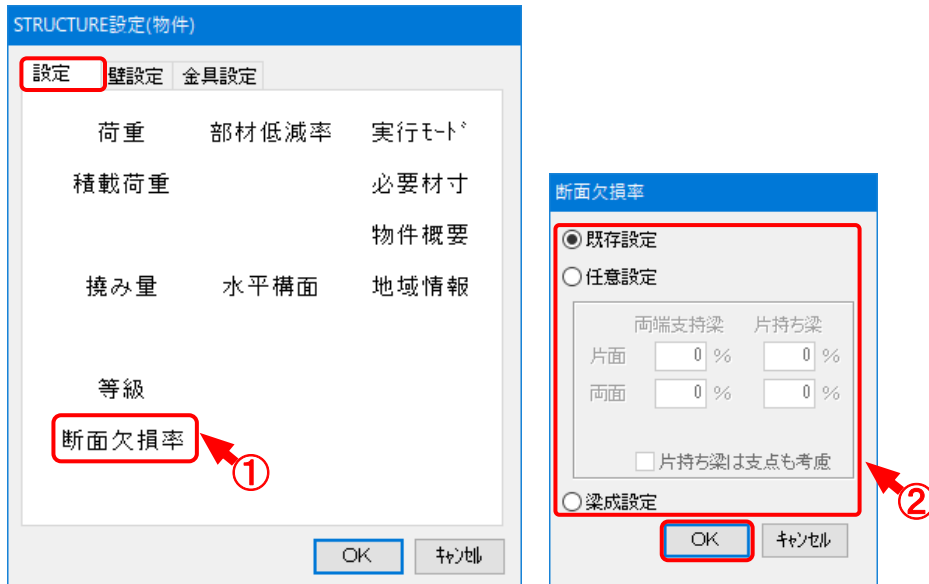


設定—物件設定—設定—断面欠損率

＜断面欠損率＞



- ① 「設定 - 断面欠損率」をクリックすると、「断面欠損率」のダイアログが開きます。
- ② 断面欠損の検討を「既存設定」「任意設定」「梁成設定」より選択して「OK」をクリックします。

＜既存設定＞

下図の低減率を加味して計算を行います。

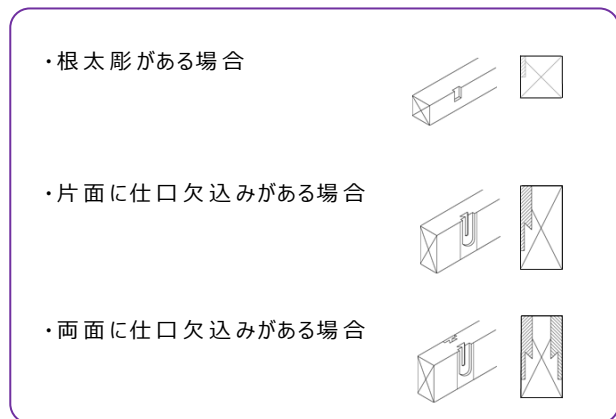
	部材低減率		
	根太彫	横架材	
	片側・両側	片側	両側
在来仕口工法	10%	10%	20%
金物仕口工法	10%	10%	10%

＜任意設定＞

低減率の数値を任意で設定可能です。

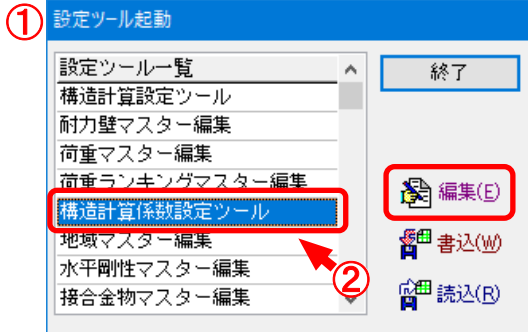
＜梁成設定＞

断面欠損マスターで設定したメス材材ごとの蟻仕口および柱ほぞ等の断面欠損低減率を考慮して計算を行います。



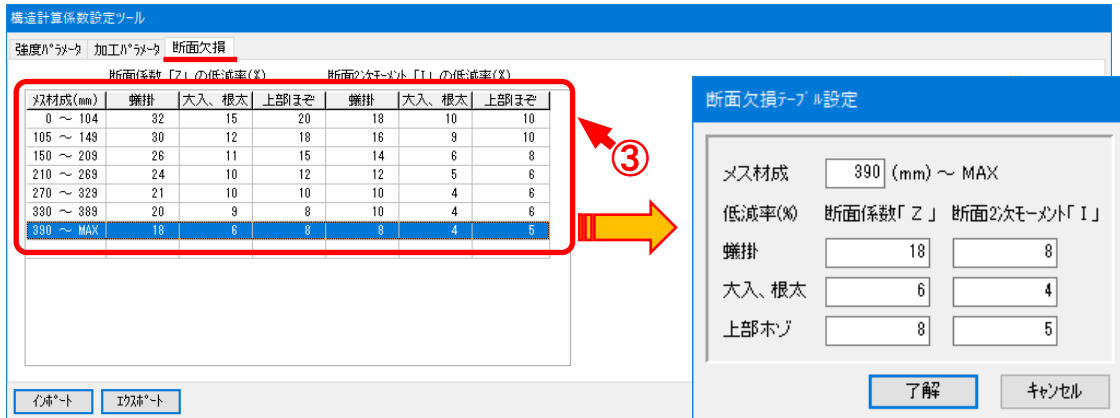
設定—物件設定—設定—断面欠損率

◆ 断面欠損マスター登録



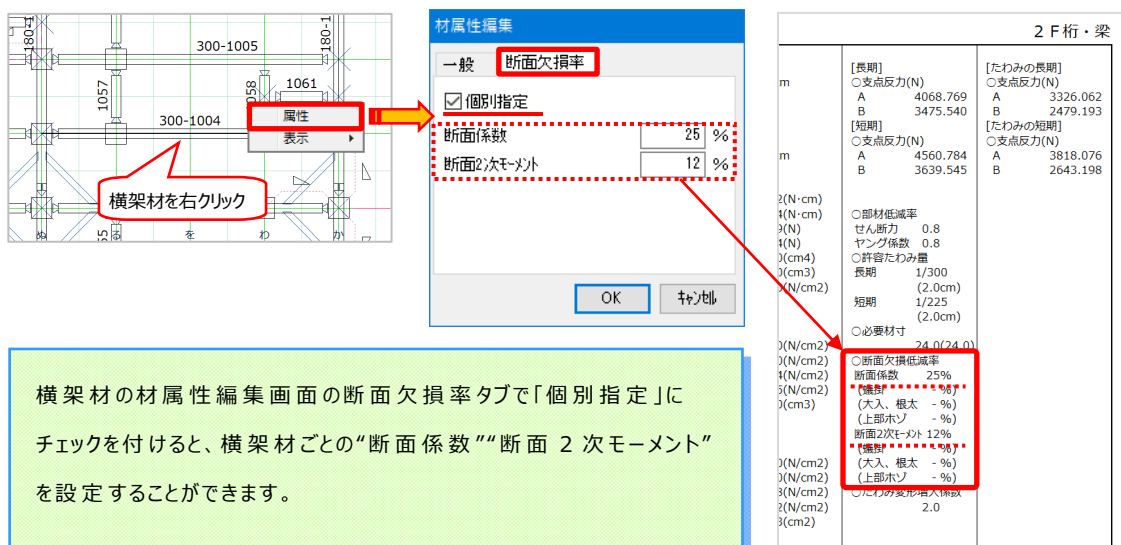
・計算対象とするオス材の加工タイプは蟻(寄蟻)、大入れ、上部柱の3タイプとする。
(兜の断面欠損は蟻と同じと考える)

仕口	蟻掛 (片側)	大入、根太 (片側)	上部ホゾ
形状			
	片側から梁を受ける	片側から梁を受ける	片側から梁を受ける



- ① [補助] - [マスター編集] をクリックします。「設定ツール起動」のダイアログが表示されます。
- ② 「構造計算係数設定ツール」を選択し、「編集」をクリックします。
- ③ 「断面欠損」タブを選択し、メス材成の範囲ごとに欠損率を設定します。

◆ 個別に任意の断面欠損率を設定することができます

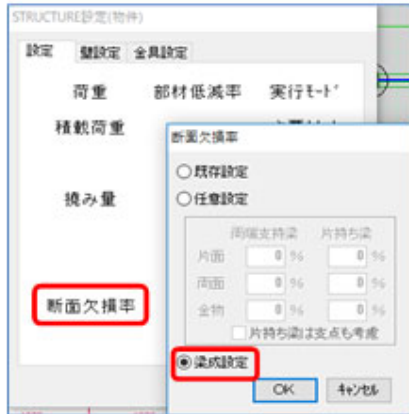


横架材の材属性編集画面の断面欠損率タブで「個別指定」にチェックを付けると、横架材ごとの“断面係数”“断面2次モーメント”を設定することができます。

設定—物件設定—設定—断面欠損率

◆ 必要材寸の表示について

断面欠損率の設定を「梁成設定」にした場合、「曲げ応力度」と「たわみ量」の必要材寸の検討は、マスターに追加された「断面欠損」の材成テーブル（※1）の該当するメス材成の断面欠損を考慮し、そのメス材成の範囲内で許容しうる最低の材寸（=XSTAEの材マスターに登録している材成単位）となります。



※1

《仕口による断面欠損の設定(マスター)-[構造計算係数設定ツール]

構造計算係数設定ツール

メス材成(mm)	断面係数「Z」の低減率(%)			断面2次モーメント「I」の低減率(%)		
	縦掛	大入、根太	上部まぞ	縦掛	大入、根太	上部まぞ
0 ~ 104	32	15	20	18	10	10
105 ~ 149	30	12	18	16	9	10
150 ~ 209	26	11	15	14	6	8
210 ~ 269	24	10	12	12	5	6
270 ~ 329	21	10	10	10	4	6
330 ~ 389	20	9	8	10	4	6
390 ~ MAX	18	6	8	8	4	5

＜横架材評価一覧表＞

材種	面行	材番	材幅×材厚	曲げ応力度(N/cm ²)			せん断応力度(N/cm ²)			たわみ量(cm)			必要材寸
				(長期)	(短期積當)	(長期積當)	(長期)	(短期積當)	(長期積當)	(長期)	(短期積當)	(長期積當)	
2F桁・梁	6011	1000	105×105	114.160	114.160	114.160	14.638	14.638	14.638	0.042	0.021	0.042	(60)
~				<1100.000○	<1600.000○	<1430.000○	< 88.000○	<128.000○	<114.400○	< 0.303○	< 0.364○	< 0.607○	(60)
と11				60	60	60	18	12	14	60	60	60	60

「せん断応力度」の必要材成 ≤ 「曲げ応力度」「たわみ量」の必要材成の場合
 () 無しの数値 = () 付きの数値 となります。